

関東同窓会が創立三十周年を迎えました。
同窓生の皆さま、同期生をお誘いのうえ、
親睦を深める、楽しい集いに参加して下さい。

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会

会報 第57号

平成16年5月31日発行

編集人 山梨由記

平成十六年度 創立三十周年記念

関東同窓会総会・懇親会を開催します。

日時 七月九日(金) 午後六時より

場所 中央大学駿河台記念館 二階大ホール

東京都千代田区神田駿河台三十一―五

電話 〇三―三二九―三一一

会費 三〇〇〇円(但し、学生は一〇〇〇円)

年会費の三〇〇〇円は当日受付も致しますがこの会報に同封の振込み用紙により、ご納入を御願致します。

議題 平成十五年度事業報告

平成十六年度事業計画

静中静高関東同窓会規約改正

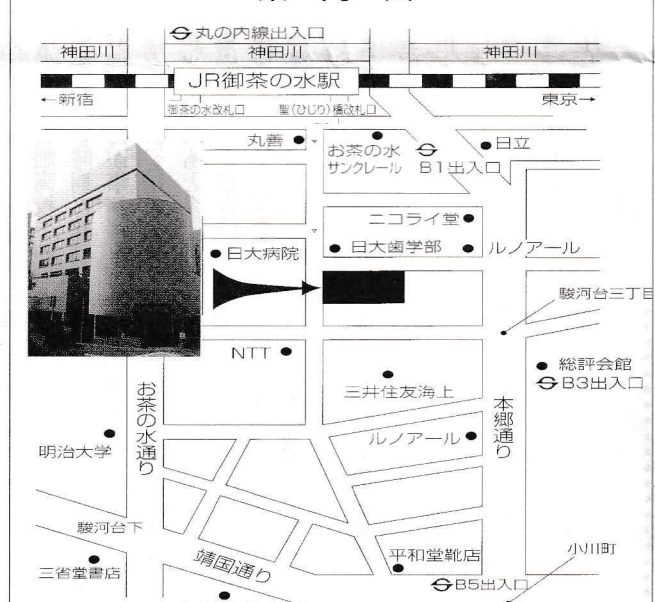
役員改選・承認

講演

石山建一氏(七七期)

元早稲田大学・プリンスホテル野球部監督。一九六〇年夏の甲子園大会で準優勝のキャプテン。その後、早大、日本石油で選手として活躍。更に早大野球部監督、プリンスホテル野球部監督として活躍。その後長嶋監督の招聘で読売巨人軍の編成部長に就任、巨人をリーグ優勝に導いた。プロフィールは次のページでご案内します。

案内図



総会、講演終了後は懇親会が開催されます。今年は82期の当番幹事の皆さんが準備をしてくれております。会場は総会の会場の隣の部屋です。懇親会の会費は例年五千円でしたが、昨年一昨年も同様の三千円と致しました。静岡から恒例の直送での懐かしい美味しい黒はんぺん、わさび漬けも届きます。

会場は昨年と同様でお茶の水駅から近い解り易い場所ですので、大勢の同窓生を、お誘い合わせの上、お気軽にご参加下さい。同封の葉書に恐れ入りますが五十円切手を貼って、出席が欠席かを、又、近況を記し、同期生の消息をご存知の方は、その欄に記入して六月十八日までに投函して下さい。

ファクシミリにて送信の場合は、〇三―三二五七―〇八二〇まで、お願いします。

講演者 石山 建一氏

77期 清水 雅尚

同期の石山建一さんは静高三年時甲子園で柴田投手(後に巨人軍)を擁する法政二高に決勝で敗れ、準優勝。その後早稲田大学、日本石油で優勝、早稲田、プリンスホテルの監督として日本一になっています。又全日本監督としてインターコンチネンタル世界大会準優勝など他に例をみない球歴を持っています。

静高も戦後、「出るも負け」の状況を自身の準優勝で断ち切ると、以後の全国強豪高の仲間入りを道を切り開いています。彼の果てぬ夢の一つは静高野球部を日本一にする事で有ります。そのため着々と手は打ってはいる。同期のシャノン化粧品品の川村社長を野球部後援会長に、長年の願いだつた雨天練習場の設置は計画の端緒に付いています。労を惜しまない後輩達への指導にますます熱が入ると思われる。彼が育てたプロ野球選手も数多く特に早稲田大学時代の愛弟子である阪神タイガースの岡田彰布新監督の話は興味深いものがある。

『関東支部

創立三十周年に想う』

79期 上田尚亮

諏訪大社下社の御柱祭から帰ってくると、上杉会長から関東支部会報の創刊号のコピーが送られていました。諏訪卓三先生(静中で英語教師、静高で校長、当時は静岡県副知事)の寄稿文が載っていました。私が寄稿を依頼したこと、戦前戦後の野球部長であったこと、またすぐれた生活者になれ、静高にはおおかで自由な空気がある等書かれていました。すっかり忘れていました。三十年の時をさかのぼり幾多の思い出が込み上げてきました。

昭和四十九年清水の叔父から関東支部の設立を手伝えと言われ、上野駅前の大雄本社へ出かけていきました。柳川太郎(42期出版専務)さん、庵原倭次(54期印刷業)さん、大雄の山田さんと会い、次回からは月見里得知郎(53期)さんが参加なされました。柳川さんは「月見里さんがキャ

ノンを停年退職するのを待っていた。」とおっしゃられ月見里さんを中心に関東支部の設立にむけて作業に入り、月二回の会議を主に奥野設計事務所で行いました。会報は庵原さんが担当、私はただそこにいただけでした。昭和五十年の結成総会をむかえ、会長宮沢次郎(42期)さん、副会長柳川太郎(42期)さん、奥野孝(53期)さんで発足し、現在に致っています。

柳川さんはこれぞ紳士という方です。温かい視線で我々の作業を見守って下さいました。月見里さんは静中時代の学友を戦争で失われたため何か残せればというお気持ちで情熱をもって組織の立ちあげに向っていらっしゃいました。

当初は旧制中学のエリート集団が総会に大勢集う会でした。実家が近所の前田鉄三(32期三井物産副社長)さんに「前田さんはコメットで世界を巡りボーナスは百万円ももらっている、という話をよく母親から聞いて育ちました。」と言ったところ大笑な

さっていました。戦地から復員なさった時に家に来ていただいた川島喜八郎(52期ホンダ副社長)さんからは「もっと先輩を利用しろ、八重洲口のホンダビルのバーで俺の名前で飲め。」といていたたり、奥野孝副会長(大雄社長)に「ベンツ」に初めて乗せていただきエンジンの軽さにびっくりしたことなど出会いや思い出が沸き上がってきます。三人とも野球部の先輩でした。

旧制中学から新制高校への世代交替の難しい時期に葉科名雄(87期)さんが事務局を引き受けていただきました。現在は担当期制のもと多くの同窓が集うおおかで自由な雰囲気運営されています。私は本年還暦になります。高校生活はよき友に恵まれた三年間、関東支部では、よき同窓に出会い、交わった三十年。心臓が止まるまで、皆様にお付き合いして頂きたいと思っています。

諏訪卓三先生は本年平成十六年三月十日に永眠なされました。

合掌

同期会開催に補助金を支給致します

この関東同窓会を積極的に活動させ、親睦を深め、維持するために同期会を結成し開催をしていただきたい。

その主旨により役員会では次の様に補助致しますのでご利用下さい。

● 該当期は81期から新卒業期までの全期とします。

● 参加一人につき、三千元を支給します。

● 年一回だけ補助します。

● 適用期間は平成十六年六月から十七年三月末までとします。

● 開催された月日と会場と、参加者名簿、幹事名(複数)を記載して報告して下さい。

● 同期会開催の記事原稿を寄稿して下さい。

問合せ、申込先は事務局までお願いします。

野方法律事務所 野方重人
TEL 03-3251-2348
会員増強委員会 垣生尚敬

TEL 0468-66-2304

大正時代の

私の静岡、江尻町

49期 杉本久敬

私は、49期生です。生まれは、大正5年、静岡市江尻町23番地です。江尻町は、今の常磐町の一部です。

長年本籍地として書きなれた江尻町がなくなつてしまつた事を、終戦後、勤務地の九州で知った時は、未だに忘れがたい大きなショックをうけました。

年輩の方はご存知の方もおられるでしょうが、江尻町という所は、芸者町というのか、花柳界というのか、料亭求友亭が中心地にあつて、周囲に何軒かの、大きな芸者置屋がありました。私の生家は、武蔵屋という大きな置屋の隣りで、反対がわは、ブリキ職人さんの家と、ちいさなおもちゃ屋さんを隔てて、加藤さんという、これまた大きな置屋さんでした。その他の住人は、はんこ屋、小間物屋、提灯屋、質屋（お金持ち）小料理屋、菓子屋、物差し屋、ふる屋、

写真館、などが並んでおりましたが、街角には、一段と大きくて、人の出入りのはげしい、見番の建物があり、芸者町の風情を、際立たせてたつておりました。

見番には、帳場があつて年輩の男衆が二人くらいおつて、あとは、記憶がはっきりしないのですが、確か箱やさん、という男衆が芸者さんの三味線の運搬係りをしておりました。見番の二階では、なにか稽古事などしていたような記憶があります。

夕方になると、子供眼にも華やかに飾つたお姉さん方が出入りしておりました。

思い出は夏場の町並みには縁台が出されて商店主や、芸者衆が涼みがてら、ひと時を、楽しげに、打ち解けて過ごしておりました。子供たちは、あちこちの縁台のまわりで、めんこをしたり、悪ふざけしたりして遊んでおりました。三つ子の魂百までも、ともうしますが、こんな町内で生まれ育つた私は、町から受けた影響と、更に決定的な影響を、植え付けられましたのが、嘉

永三年生まれ、彰義隊生き残りの祖父杉本義敬からでした。

義敬は、十六才で元服して勉学する暇もなく、幕末明治動乱の世界に投げ出され、命をかけた出来事を、運良く生きぬいてきた人です。

幕府崩壊後、杉本一家は、金谷の牧の原に、幕臣旗本の一団と共に移住いたしました。

然しこの時期、彼等にとつて最大の課題は、いかにして家系を守り、生計をたてて行くかということでした。要するに食べて行けないという現実には直面したのです。

幕臣でも、外国語その他、文明開化に必要な学識のある人々は、没落地獄から浮上してゆきましたが、祖父は大切な青年期に、勉学の時期を失しておりましたので、家族を如何にして養つてゆくに悩みましたが、偶々、牧の原移住組の世話役であつた、山岡鉄舟に助けられ、当時殖産事業などに転進していた、清水次郎長に紹介され、その知遇をえて、なにかと仕事を斡旋して貰ううちに、法律の必要

なことに気づき、静岡の弁護士、石川重玄の教を受けて、当時代言とゆう制度があつたので、必死になつて独学で代言の資格を取り、石川弁護士の比護と指導の下で働き、生計の道をたてるに至つたと聞かされました。

江尻町の家屋敷もそのお陰で手に入れたものです。百余坪の土地に、少しばかり、武家屋敷風の木造の堀に瓦をのせて、横開きの立派な門がついておりました。

芸者屋の町では、珍しい家でした。少年のころの私は、この堀の上につて、朝帰りの若い姉さんが、たたんだ商売用の衣服類を大事そうにもつて帰るのを、待ち構えて冷やかしたりしました。

元来置屋の主人というものは、女主人は水商売の年増、旦那は、その当時は、次郎長の身内で、その筋の停年退職者という人等が常識でした。

元来静岡の芸者は、東海道筋では、上玉が多く東京の名士が、隠れ遊びに来る所でした。

伊藤博文などの名前も伝え

られておりました。芸者も二号の玉の奥にのれば、立派なものです。静岡には、二丁町という遊郭街が別にあり、江尻町は別格、上級の遊び場でした。

町内の子供で、野球のチームを作ったときは、旦那持の姉さんから、小遣いを貰つて道具の調達をしました。

明治十七年、正義についていた、次郎長が、賭博の罪により罰せられ、井之宮監獄に収監されました時には、祖父は、代言人として又東京の、磯部弁護士並びに静岡の石川弁護士のもとで、助手的にはたらいたそうです。次郎長は十八年には、特赦放免されております。次郎長には、色々お世話になったようです。そのころの名残で、祖父の長女が生まれた時には、おてふ、という名前をもらつたそうです。これは次郎長の奥さんの名前です。そんなこともあつて祖父は、江尻町の杉本と言われて所謂 市井の一人人として、置屋の女将からも一目おかれていました。

私はその後継者と目され

ておりましたので、餓鬼大将でも、町内では、水商売の世界、即アンダーグラウンドに繁がる人達からも、少し距離をおいて見られておりました。そんな江尻町の生活が懐かしう、大学をでたら静岡に帰って、なにか水商売でもしようとおもっておりました。

ところがです。晴天の霹靂、祖父なきあと、養子の父は、この土地を私には相談もなく、売ってしまいました。父はお金が欲しくて売ったのではないよ、といって一枚の紙切れを私のこしました。それが、土地が変わった満鉄の株券でした。勿論終戦と同時に、紙屑となりました。

私は、樋口一葉の文学の世界と江尻町の女達の生き様とをダブルで見ておりました。

文藝春秋

同期生交歓に登場

七七期 十五名が

月刊文藝春秋の巻頭グラビアで名高い同期生交歓に77期の皆さんが掲載されました。

77期は野球で有名な石山建一さん（今年度の講演者）を中心にまとまりが強い事で評判です。撮影当日参加できなかつた中には朝日新聞西部本社代表の三浦昭彦さん、日本生命副社長の石橋三洋さんなど多士済々な人材が輩出しています。最近鳥取大学教授の大槻公一さんも同期の一人です。掲載文は、次の通りです。

「叩高」（叩きを仰ぐ）は、百二十六年の歴史を誇る伝統高、県立静岡高校の校訓である。我々はその七十七期（昭和三十六年卒）生。高校三年の夏、甲子園で準優勝した野球部の主将だった石山を中心にとまりが強い。昨年還暦を迎えたが、まだまだ若く目指すところはますます高い。さて仲間を紹介しよう。まず横山はハードな職務を趣味と健康を兼ねた座禅を日課に組み込み黙々と進める。「単独チームでアテネ五輪に出たかった」という女子バスケットの強豪チームを擁する川村。また同社を支える常木。「セコムしてますか？」TVCMでお馴染みの長嶋茂雄人形を造ったのが安達で、日本では斬新な人材。益田はヴェネツ

ィアで毎年個展を開く世界的ガラス工芸作家。石山は巨人軍の編成部長も歴任、現在講演活動や高校、少年野球の指導者として全国を巡る。栗田はビクター在職当時、営業・広報担当で日韓共催のワールドカップに尽力。高谷は異色劇作家、演出家としても自ら若人と舞台で汗を流す。村松は、学研を定年後、同期の還暦記念集をまとめた名編集長。医学の世界では伊藤が東京で、小沢が静岡で活躍中。



更に茶産業を支え「茶は葉で飲む」と言い続けている望月。同期会だけでなく、関東同窓会のまとめ役・常任幹事の清水。すべて会計のことは松井、超最新のIT機器を使いこなす。最後に日本の中心神田に事務所を置く野方。ほかにも多士済々の面々あり。今回は都合のよかつた者だけが集まった。

前列右から

住友生命社長 横山進一

シャンソン化粧品社長 川村修

元早稲田・プリンスホテル野球部監督 石山建一

静岡済生会総合病院院長 小沢勝男

東京女子医大教授（整形外科）伊藤達雄

ガラス工芸家 益田洋美

後列右から

元週刊誌編集記者 村松貴彦

イラストレーター・人形作家 安達忠良

シャンソン化粧品副社長 常木明

静岡茶商工業協同組合理事長 望月浩

元日本ビクター取締役 栗田収司

税理士 松井義之

脚本家・劇団「ギルド」主宰 高谷信之

弁護士 野方重人

あいおい損害保険代理店主 清水雅尚

★★★★★★ 静中・静岡関東同窓会 ホームページ便り ★★★★★★

このホームページを作成して、3年目になります。ご利用を有り難うございます。

少しづつですが、掲載内容を更新しておりますので、是非、ご覧下さい。

静中・静岡同窓会

<http://shizuko.cc> (静高はココ と読みます)

静中・静岡関東同窓会

<http://kanto.shizuko.cc> (関東静高はココ と読みます)

同 関東同窓会メールアドレス

kanto@shizuko.cc (広報担当 石川宛て)

広報委員会 石川嘉和 (87期)

静岡の万葉を歩く

(二十八)

51期 原崎 郁平

浜北市平口五〇五三 万葉の森公園の中央池のほとりに次の歌碑が建っている。

伎倍人(きへひと)の

斑(まだら) ぶすまに

綿さはだ

入りなましもの 妹(いも)が小床(をど)に

(巻一四・三三三四)

平成三年三月五日建立

建立者 浜北市教育委員会

揮毫者 犬養 孝

(国文学者・文化功労者)

寸法は高さ百七十センチ、幅百八十センチ、厚さ四十六センチの自然石に、縦六十七センチ、幅九十センチの黒御影石が嵌め込まれている。大意は「伎倍人の斑」に染められた夜具に綿が沢山入っているように、自分も入ればよかったのに、妹の寝床に」であり、誠に艶めかしい歌である。歌碑が立っているところは、浜北市平口(遠州鉄道・浜北駅西方約2キロ強)の万葉の



森公園の中である。

碑裏に次の言葉が刻んである。「万葉集の巻十四には、『東歌』と呼ばれる民謡風の歌が収録されている。東歌が詠まれたのは、遠江以東で、この歌は遠江歌で「伎倍」(きへ)とは、鹿土郡(ほぼ現在の浜北市域)内の特別な地域の名である。」「伎倍」とは昔の笠井町の東南の貴平町と見る地名説がある。伎倍人は帰化人の技術集団で、主に機織りを仕事としていた関係

から定住していて、出来上がった布をあちこちで物物交換の品と取り替えて生活していた。しかし、当時としては班衾に寝る人たちは大変珍しい。一般人で床に布団を敷いて寝るという習慣は江戸末期頃であると言われている。その点から班衾の寝具を使用するという習慣は機織り職人ならではの事であろう。布は律令制下の負担として「庸」に当たる物であり、それを布団にするとすることは、一般の農民では想像がつかない。周囲の人と異なった生活は「班」に象徴される。浜北市は「万葉とみどりの町」と呼ばれ、本州唯一の旧石器時代人「浜北人」が発掘され、万葉のゆかりの地である。浜北市は静岡県西部に位置し東に日本三大急流の天竜川、西に徳川家康に縁のある古戦場・三方原台地、北は赤石連峰を望み、南は浜松市に隣接している。産業としては、自動車・オー

トバイ機器を中心に「槇」に代表される庭園木・苗木の栽培が盛んである。その他の特産品としては、次郎柿、中国野菜、酒、地ビール「浜名湖ビール」等がある。私の知人に旧笠井町出身の人がいた。家業は零細企業の機織りであったが、この歌から帰化人の子孫で昔からの世襲であることが分かった。

新刊本のご案内

前文部科学大臣

73期 遠山 敦子 著

こう変わる学校

こう変わる大学

講談社 刊(二六八〇円)

「人間力戦略ビジョン」、

「学びのすすめ」、「画」と受

身から自立と創造へ」、さら

には「トップ30」や、遠山ブ

ラン、国立大学法人化などの

言葉で表される、小中学校か

ら大学までにわたる一貫した

教育改革。二十一世紀初年か

ら二年五ヶ月の間、文部科学

大臣として進めてきた施策の

根底にある考え方を、心を込

めて分かりやすく語り尽くした。

各期の会員の住所録をPCに登録・管理しておりますのでご利用下さい

各期の幹事又はそれに準じる方のご依頼があれば、その期の住所録をコピーしてFAX送信、又は、E-MAIL送信を致しますので、利用して下さい。

会員増強委員会 垣生 尚敬 (78期)

E-MAIL yas1habu@poppy.ocn.ne.jp

広報委員会 山梨 由記 (73期)

E-MAIL kingsmil@cba.att.ne.jp

広報委員会 高橋 宏 (87期)

E-MAIL hiroshi3.takahashi@toshiba.co.jp

TEL 0468-66-2304 (自宅)

FAX 0468-66-2304 (自宅)

TEL 047-478-6906 (会社)

FAX 047-478-6907 (会社)

TEL 03-3756-5851 (自宅)

FAX 03-3756-5851 (自宅)

紫綬褒章受賞

木村栄一氏 73期

おめでとうございます



私たちの73同期生の木村栄一が本年春の紫綬褒章受賞となりました。たんばく類似高機能性を持つ小分子、大環状ポリアミンを創造し、生物・有機化学、医薬化学、超分子化学の領域で独創的、先駆的な業績を上げ、世界にインパクトを与えた。日本からの新たな学問の創成に貢献すると共に、世界中で優秀な人材を育成した。それらの学術功績により、本年五月の春の紫綬褒章受賞となった。

城内中学、静岡高校から、
61年東京大学薬学部卒、
63年同大学院修士課程終了、
67年米ノースカロライナ大で
化学博士号取得、
70年広島大学医学部助教授、
78年同活性構造化学講座教授、
92年アイザット・クリステン
セン賞受賞、
96年日本薬学会賞、
02年広島大学名誉教授、
03年日本薬学会会頭。
(文責 山梨 由記 73期)

靖国神社初詣の記

51期 田中賢一

正月二日出かける。数年前までは元旦の零時に詣でたことも何回あったが、郊外から電車を乗り継いで行く元氣も失せた。今回は天候に恵まれ午前中に向いた。若い参詣者が多いのは嬉しい。それにつけても敗残の老兵の思いは格別。

この奥に友垣あまた鎮まるを思へばなどか胸迫りくる
二礼二拍手一礼の後、しばし佇み奥宮を見詰めていると何か靈感を覚える。若くして国に殉じた戦友達。

富む春秋国に捧げし英靈に
済まぬ思いの八十路かな
浮かび出す匂うが如き若武者の
み前に我は迫りきぬ
「はなればなれに散らうとも
花の都の靖国神社
庭の梢で咲いて逢およ」
ほの暗い裸電球のもとで茶
碗酒傾け歌つたあの横顔、
君が霊何処の枝に宿るらむ
大和心のこもる櫻木
幽明の境除かるこの庭の
居並ぶ木々に霊こもるらむ
白き鳩君が心をはばたきて
清く直きと我は覺りぬ

国歌と校歌

54期 安東哲夫

昨年十一月十五日われらが静岡中学校の創立百二十五周年記念式典に参加を許され、諸々の光栄と感懐したったのであるが、珠に国歌を在校生の諸君と共に荘厳な中に朗々と詠い上げ、われらが日本人であることの喜びを嘯み締めたのであった。巷では入学式・卒業式に国旗を掲げたか、国歌を起立して歌ったかなど単なる形式的なことが伝々されているが、要は詠う心の問題が大切であるわけである。従って私は本日四月六日入学式の行われた地域の小学校の校長に対し、生徒によく国家の何たるかを理解させ、心を込めて国歌歌わせるように指導し、要は国に誇りを持つことのできるよう生徒を育てていただくよう強く要請したところである。教育基本法すらわが国の国体にとつたものに改訂することは並大抵のこととは思われないが、これこそ現在の緊急事である。

私は大分県豊後高田の出身

今年も

「江ノ島会」へ!!

昭和二十二年以来、雨が降っても、槍が降っても昭和が平成になっても、イラクで戦争が始まっても、必ず毎年九月の第一日曜日は「静岡高江ノ島会」です。

今年は、九月五日(日)屋の十二時場所は、江ノ島「恵比寿屋」会費は、一万円「江ノ電」か「小田急線・江ノ島」か、大船からの「湘南モノレール」か、兎に角「江ノ島」で降りて、夏の名残りを楽しむウインドサーファーを横目に、江ノ島の長い参道橋を渡って、すぐの左側が恵比寿屋さんです。

今年も大いに旧交をあためましょう。母校から校長先生や同窓会長等ご出席の予定です。今年の甲子園情報などなど。初参加も、大歓迎です。

お問い合わせは、
黒田秀幸(67期)まで
Tel 0四五二六・一五一八一

であるが、小学校は長野県の飯田であり、昭和三年に入學したが、当時飯田の小学校は溪井場、大久保の両校で学び、四年生から全員が本校に通って学ぶシステムであり、四年生からは祝祭日に本校体育館で二二〇〇名の生徒が歌う三部合唱による国歌は全館をゆるがし、その時々には私の小さな胸に刻まれた大きな感動は今も忘れることはできない。

飯田小学校の校歌は現在追手町小学校(旧本校)で歌われているものが明治四十年七月三十日制定以来ずっと現在まで歌い継がれており、今も私の胸に深く刻ま込まれており、私は折にふれ一人朗々と歌うのを楽しみにして来た。歌詞は次の通りである(二番略)

一長姫城の名に残る
昔のあととは変われども
今ぞ栄ゆる学び舎の
庭の教も年毎に
進み行くこそうれしけれ
三しばし木の葉の下くぐる
谷川水のせせらぎも
やがて瀬となり淵となり
天の中川絶えず
大海原にたゞゆなり

なぜ小学校一年から四年まで学んだ飯田小学校の校歌を今までこうして歌うことができるのか、これは私にも不思議に思われるのであるが、私にとつて心の古里である飯田を遠く離れて静岡で小学校、中学校と受験の生活を続けながら時折思い出して口ずさんでいたからかとも思われる。しかし共に歌う友にめぐり会えないのが残念である。

この校歌が戦後の時代を経て歌い継がれたことは、この歌が時代と拘りなく名歌であった為と思われる。既にこの歌詞は石碑として追手町小学校の校庭に建立されている。

処がわが静中、静高校歌に思を致すとき誠に遺憾にたえないと思うのは私だけであろうか。光輝ある三千年のわが国体を詠み上げた校歌を戦後一番のみとし二番乃至四番を切り捨てたのである。「義男奉公」「文武の道」「大現神天皇の陵威を四方に輝かせ」これに何の支障があるというのか。同窓生、在校生全員が堂々と歌うことの一日も早く来らんことを祈るや切である。(二六・四・六)

今はなき友を偲んで

64期 野澤正憲

平成十五年十二月三日、

神谷武男君逝去

平成十六年二月一日、

渡辺素夫君逝去

之の半年の間に身近かに居た良き友二人も失い誠に痛恨の極みである。神谷君とは高校三年の時ソフトボールで急速に仲良くなり、夏休みには、お互いの実家へ相互訪問をし、御前崎灯台や、地頭方の海水浴場へ連れていってもらった楽しい思い出がある。大学卒業後、君は鴻池組に就職された関係で関西勤務となり、疎遠となったが、やがて東京に転勤し、恒例の「七夕の会」には勿論、昭和五十六年より始めたゴルフ会にも第一回より参加し殆ど欠席のない位、同期の会合には積極的な協力、出席して下さり、世話人は唯々感謝の一念であつた。

平成六年四月念願叶って初優勝された。その時の挨拶で「何度も下手で出席をやめた」と思っただけやはり昔の仲間とあえる喜びをいつも持っていたから、あと二回は優勝したい」と語ったが、優勝一回、準優勝一回と目的は達成している。昨年十一月十五日の母校百二十五周年記念大会には闘病中の身であり乍ら大会に出席し、静岡の同期生と再会欲談、翌日小笠原佐倉の先祖の墓に参詣し帰京。半月も経たずして天国に旅立ちました。

神谷君には小生の仕事上でも大変御世話になり又同期会の会合には、いつも黙って参加して戴き感謝あるのみ、神谷君ありがとう。心から御冥福を祈ります。

神話が崩れた日

64期 佐野 旭

平成16年4月27日、遂に「神話」が崩壊しました。(何とオーバーな!!)

昭和56年秋の第一回大会以来「雨中の決戦」を知らず、ましてや「雨天中止」など、唯の一度も経験せず「みんなの平素の心掛け」による「好天」が神話となっていた64期

ゴルフ会が、時ならぬ「春の嵐」に見舞われ、中止の破目に至ったのです。

今までは、前日大雨でも当日は晴「昨日の雨で下が湿っているから、キャリーで思い切り稼ぐように、力一杯打って……」という幹事の迷言を、二三度聞いた記憶があるだけでした。

前後の26・28両日は晴、この日だけが大雨・洪水・暴風の警報三役揃い踏み、その上、東海道新幹線までストップするというオマケ付きの悪日。それでも集合予定時刻前には、「ヨオーツ・相変わらずオメー早えジャン」

「一寸明るくなったけれど午後の方がワリワリっていうから、今日はダメだな……」

「ゴルフが出来ねーったって、皆と顔合せが出来りや、それでもエーダヨ……」

「三十年前ならやっつたんな!!もう無理することーねーさ……」

などなどの駿河弁を引っ提げて、富士CC(御殿場市)に全員集合(静岡14名、東京7名)。

残念乍らゴルフは中止、会場は座談会と化しました。

先づ幹事石原良昭君の「此の日を選んだのは私の不徳の致すところ、誠に申し訳ない……」と、どこかの不詳事務長の如き発言に、「オテントーサンの事は誰にもわかんねえよ……何言ってるんだ……」からスタート。

初参加の高野宏君は「今日の雨を俺のせいだと言う人が居るかも知れんが、俺は常に清廉潔白、いつも晴れ男なんだ……」と挨拶、

「小学校一年から一緒だもん、判ってるデチャンカー……」と誰か。

幹事時田勝博君の「今日用意した賞品は『アミダクジ』で山分けしたい、クジは準備して来た……」の動議は、全会一致で可決。(幹事手回しヨロシ)

N、P 8名のなかでも、いつもメーカー役の村松敏雄君「実力では取れない賞を貰った……」と笑顔。

参加賞の、静岡名物煎餅「8の字」「あじろ」に、「子供の頃よく食ったなあ……」しみじみと水田進一君。特に関東居住者には、懐旧の一品でした。(アリガトウ)

アルコールは法度だが、ジューズ、アイスクリームでも、皆の口舌は滑らか、

「アミダだろうが何だろうが、優勝は優勝だ……、ハントは上げてもらわなくちゃ……」

「そりゃそーだ……、だと無責任に盛り上がり、上位の3名は約東通りハンデアップが決定。

今回の埋め合せ、39回大会は、5月27日にこ、富士CCで実施することを決めて散会、降りしきる雨の中、御殿場を後にした。

「トシもカラダもコキ、コキ……」とお互いに言っているが、
「元氣印」の何人かは「ゴルフ中止のストレス解消」と「温泉とウマイモン」を求めて「時の栖」(御殿場高原

ビール、天然温泉、ccc) 目指して出発しました。

嘗てラウンドを共にした同期の神谷武男君、渡辺素夫君、伊豆大仁CCでお世話になった安田正嗣君(66期)の計報を聞くにつけ、一同「テイインググラウンドに立てる幸せ」を一層深く噛みしめ、再会を約しました。

三君のご冥福をお祈りします。

テニス部

関東OB有志の会

67期 児島英男

テニス部関東OB有志の会が、平成15年10月30日(木) 明治神宮外苑テニスクラブで、開催された。

当日は絶好の、テニス日和に恵まれ、学生時代に若返って、楽しいプレーに熱狂した。いつもお元気で、プレーされる清水 汪氏(59期)旧制高校のテニスを思わせる、巧みなロピンクでプレーされる。諸田 実氏(61期)全日本の選手と

して活躍された、大地不二雄氏(70期)いつも元氣な大河内 久氏(73期)も、それぞれ美しいフォームでプレーしていた。静岡からもテニス部の部長として、ご活躍、ご指導いただいた、鈴木敏朗先生(生物) 柳沢 学氏(68期) 大石 久氏(72期)ご夫妻も参加された。鈴木先生はじめ柳沢氏、大石氏も今もって元気で、若々しいプレーをされ

ていた。夜は、地下鉄、神宮外苑駅前の、メトロ会館で懇親会を開催、児島より、今年には母校静岡・静岡創立125周年の行事が開催される、記念すべき年です、この行事を祝すべく、野球部が夏の甲子園に見事出場し、その活躍はすばらしく、名門、静岡高校の名を全国に示された等の報告があり、清水 汪氏の乾盃の音頭で、宴会に入った。鈴木



先生からご挨拶のあと、静岡新聞に連続で、掲載された、静岡・静岡創立125周年の記事のご紹介があり、①テニス部の紹介記事②人物誌の中で、テニス部で活躍された、杉山英男氏(58期) 清水 汪氏(59期) 齋藤 孝氏(95期) 諸氏の紹介記事のコピーの配布があった。そのあと、全員昔話に花が咲き、和気あいあいの楽しい一夜を過ごし、又の再会を誓って、散会

した。

この会の開催に当たり、幹事役の山中 博氏(73期)に大変お世話になり、心より感謝致して居ります。

(当日の参加者)

鈴木敏朗(先生) 清水 汪(59期) 諸田 実(61期) 児島英男(67期) 岡村英二郎(67期) 柳沢 学(68期) 立花雅一(68期) 大地不二雄(70期) 清水雅彦(72期) 大石 久(72期) 大石徳子(令婦人) 山中博司(73期) 大河内 久(73期)

印高会 ゴルフ大会

再開

昨秋ひと休みしましたゴルフ大会を6月14日川崎国際生田緑地ゴルフ場にて行います。数々の名場面をゴルフ史に刻んだ井上誠一設計のトリッキーな、そして都心から近いゴルフ場です。今ではカーットの導入で年配の方々でも安心してラウンド出来ます。プレー代一万六千円。参加費は四千円。ご希望の方は事務局又は清水(〇九〇一七八〇〇一三七六七)宛て、六月四日までにご連絡下さい。

終りが 急に見えてきた!

68期 荒谷じつ子

関東同窓会の役員になって二十数年、すばらしい先輩達に、可愛がられ、楽しくお手伝いさせて頂いた。同窓会に御尽力下さっていた42期の宮澤次郎、岩波信平、53期の大石巖、奥野孝、月見里得知郎、59期の奥澤徹、67期の成岡英彦様達が、次々と亡くなられてしまった。役員会が淋しく

年を感じだした頃、夫が難病のALS(筋萎縮性側索硬化症)になり、呼吸器を付けなければ生きられないと言われた、嫌がるのを泣き落として、付けてしまった。胃漏もと言われたが、せめて口からと、家につれ帰って、必死で流動食作って食べさせ、一年半体重も10キロも太りほつとした時、胃潰瘍で吐血、入院、もう口からは無理と言われ又嫌がるのを泣き落として、胃漏をさせてしまった。この二年間で両手は全く動かなくなり、口もきけず、ベットに寝

たきり、食べる楽しみもなく、最後は、目だけ動くのみ、という人生を選択させてしまった責任を重く感じ、残りの人生を大切に、楽しく頑張ろうと思っている。病氣のお陰で、子や孫達、友人、親類が入れ替わり家に来てくれるので、こんな老後も、にぎやかで良いと思っています。

この二年間同窓会のお手伝いは何も出来ず、親睦委員長のは役は71期の浦田彰さんにやって頂き、助かりました。77期の清水雅尚さんが、疲れ切っている私を、近くの花見のゴルフにさそって下さり、二年ぶりのゴルフで元気づかれたり、最後の御別れのつもりで出席した本年の役員、幹事会の新年会で暖かさを一杯頂き、力づけられ、ほんとうに我が人生は静高のお陰で、豊かさ一杯だったと感謝しています。

★ 各期幹事一覧表 ★	
★ 幹事が変更の場合は事務局までお知らせ下さい。特に幹事未定の期は至急選出してご連絡下さい。	
45 鈴木弥門	73 山中博司・山梨由記
46 丸杉孝之助	74 後藤孝子
49 菅沼 栄・杉本久敬	75 佐藤鎮司・藤原經史
50 丸尾文治 51 原崎郁平	76 今田 肇・佐藤修一
52 服部雅雄・廣川 聡	77 井出辰一郎
54 安東哲夫	78 酒井孝太郎・鈴木 浩
55 相川富士雄・法月重雄	79 清水雅尚・野方重人
56 清水逸郎・萩原達雄	80 三浦位通
57 岩井平一郎・影島利邦	81 鈴木藤男・垣生尚敬
59 青木静男・原 淳	82 上田尚亮
60 堤 崇・山本雅之助	83 吉野卓史・上出和子
61 大石次男	84 本多英一・仲谷幸子
62 63 吉川隆士・大石一輔	85 磯谷和子・川崎久美子
64 65 野沢正憲・佐野 旭	86 八牧浩行・秋山 好
66 田中俊男	87 田畑秀典
67 朝比奈正三・小杉 弘	88 山本雅敏
68 鈴木敏行	89 池田幸司・深津俊郎
69 荒谷じつ子・吉崎英輔	90 成岡和美・井出慎吾
70 宮崎吉英・山本龍男	91 藁科名雄・石川嘉和
71 石山 博・北村 孝	92 高橋 宏
72 関 哲男	93 鳥巢 修・新村暢宏
73 海野幸雄・後藤弘枝	94 荒井千明・米澤宣行
74 浦田 彰	95 山野直文
75 桜井亮介・深田 均	96 岡村幸彦・大羽章弘
	97 松野敦子
	98 奥田規之・細沢 優
	99 清水智人
	100 小泉輝武・開発啓之
★ 同期会のチャンスも作って、楽しい集いを作ってください。	
★ 幹事未定の期は……至急選出してご連絡下さい。	

人生と健康

74期 藤原經史

昨年は静中・静高創立百二十五周年ということで参加させていただき、歴史、伝統の重さをつくづく感じた私です。

六十代も中ばになりますと、自分の人生は何であったのか、又最後まで健康でありたいと思う今日此の頃です。

私は安岡正篤先生を心の師と思っております。先生の書籍、又公演テープをほぼ毎日の様に聞いております。その中で、「人生の五計」があります。南宋の時代に、見識ある官吏として多くの人たちに深く慕われた「朱新仲」氏の悠々たる人生訓、「生計」「身計」「家計」「老計」「死計」の五計があります。人間いかに生き、いかに身を立て、家庭を築き、そして悠然と老いて、価値ある死を迎えるか、安岡正篤先生は朗々と説いております。

私の身近で、昨年の暮、そして今年に入って、まさに櫻

の満開の時に、ある仕事を通じて、三十年以上おつき合いをして、親友の一人としていた人が他界されつくづく人生の五計「老計」「死計」というものが大切か痛感しておるところです。

私達の年齢も「老計」「死計」の時代に入り、いかに熟された時間をもつか大切で

す。老いていくということは、みんな老衰することだと思いが、そうではない。老熟すること、老手、老練でなければならぬと言ふことです。そのためには、やはり健康であるということ。私は健康維持のため、極力歩くことを心掛けております。週に二、三回、「黎明即起、醒めて後需恋するなかれ」會国藩の言葉を実践するためにも、早起きして時速六キロメートルの速さで、十キロメートル以上歩きます。又よい水を飲むことも心掛けております。又私の生まれが金谷町で、牧ノ原茶園の近くで育ちましたので、お茶も多く飲みます。

「健康とは多くの人の為に

役立って生きてゆくこと」とある人が言われました。まさにその通りだと思います。

安岡正篤先生の、日用心法という十五項目のお教えがあります。紙面の関係ですべては記載出来ませんが、例えば「毎晩よく眠れるか」「悪習慣はないか」「運動をしているか」「平常心で仕事が出来ているか」「自分の人格向上のための教養に努力しているか」「自分は何か信仰、信念、哲学を持っているか」等々です。

理知は酸性(陽)感性はアルカリ性(陰)と言われ、人間の体は中、中道、中性がよいと言われ、人間はどちらかと言ふと、理屈っぽい人よりは、やや情の発達した人、感性豊かな人がよいようです。自然にふれ、よき山水に出会うことが必要です。安岡先生も、よき友、よき師、よき書物に出会うことの大切さを説きます。

「行年五十にして四十九の非を名知る」

六十にして六十化する」

オリンピック

76期 鈴木 浩

間もなくオリンピックが開催されます。発祥の地に戻った大会は、施設の準備に遅れがあるようで心配されます。

ヨーロッパの田舎での大会は本来の素朴なものになるのか、あるいは、毎回繰り返される目一杯華やかな開・閉会式を伴った演出になるか、祭りとしてそれも良い。どちらにしても悲喜こもごもの選考を経た高い能力を持った人々の活躍を見れるのは楽しみです。私はよく思うのですが、一級の選手を知るのも素晴らしいと考えますが、ここでパラリンピックの報道も、もつと多岐したかどうかと思えます。そこからはより大きな感動、尊敬の念が得られ、人間の尊厳を感じとれる事もあると思う。生命を軽んじる嫌な事件の多い昨今、多少の抑制効果も期待できるかもしれません。

同期会など

五十一期同期会

51期 原崎郁平

関東地区に在住の同期生で最近の出席者にだけ案内し、8名が平成16年4月12日に銀座六丁目の和風レストラン富貴洞に集まり、広瀬毅君の名司会で始まった。常連の静岡在住の狩野安彦君は仕事の都合で欠席のため今回は静岡からの出席はなかった。狩野安彦君からのメッセージを原崎から伝えた。出席者は85・86才の年齢であるので、今回は長生きの秘訣を話せとの司会者の要望があった。①広瀬毅君は戦時中軍隊に入ったが、ロシア語の特別教育を受けたために戦地にも行かずに生き残った。今は毎週ゴルフをやっており、自分の性格としてよくよいしないをモットーとしているのが長生きの秘訣だと思っている。②玉越俊一君、昔は虚弱児だったが中学に上がる頃から丈夫になった。今は囲碁をやっている。生来のもんぴり屋だから長生きしたのかも知れない。③高橋達郎

君、東京生まれ、沼津にいたことがあるが、東京住まいの頃府立第九中に2年まで在籍し、3年から静中に転校した。④諫山廉君、小学校は仙台、その後浦和中学に在籍し野球をやっていたが、4年の時に静中に転校した。戦時中は海軍技術科士官として南方の基地で設営隊にいて生き残った。高血圧の治療のため薬を飲んでいるがゴルフをやるだけの元気はある。人生は「運」だと考えている。⑤渡辺巧君、富士市生まれだが東京で小学5年までいて6年から富士市の小学生へ転校した。小中学校を通して無欠席の記録を持っている。兵役は満州から北海道の旭川に転属になり生き



残った。もともと内臓が丈夫なせいいか今でも健康である。毎日2時間足らずだが散歩しているし、食べ物としては「めざし」を食べていることが健康を維持する秘訣だと思っている。⑥田中賢一君、富士郡の出身だが父親が静岡中学に学んでいる。静中から陸士に行き、初めは騎兵だったがその後落下傘部隊に入った。近年帯状疱疹を患った。席上資料として「左伯正剛君への弔電」と「戦没軍馬鎮魂歌」を配布した。⑦原崎郁平、席上資料として「ばけにない五カ条」を配布した。「仲間がいて気持ちの若い人……」などが書いてある。⑧林盛次君、金沢から静岡へ移住した。戦時中は旧満州の昭和製鋼所勤務し、昭和19年に陸軍に現地召集され、昭和20年から昭和25年までシベリヤに抑留されたが生き残って帰国した。(以上で自己紹介終わり) 食事終了後、校歌を斉唱し再会を約して解散した。写真は前列左から渡辺功、王越俊一、高橋達郎、後列、左から原崎郁平、田中賢一、諫山廉、広瀬毅、林盛次の8名である。

六十期 同期会

60期 堤 崇

今年もわが六〇期の同期会は、四月の第二金曜日、九日十二時半から静岡駅前ブケ東海で開催された。

長い間、同期のまとめ役として尽力された才茂誉英君



が、昨年十月急逝され、今年から森迪也君を中心に、片山勝彦、長野純明、名波謙三、黒田和彦の諸君で幹事団を構成し、会の運営に当たることになった。

今年の参加者は、地元の静岡から三十三名、東京方面から六名、はるばる鳥取から、今年も岡本正信君が参加して、総勢四十名であった。

司会進行は、長年母校で教鞭をとった長野君。先ず恒例により、昨年に降亡くなくなられた、才茂君はじめ九名の朋友諸兄のご冥福を祈って一分間の黙祷を捧げる。続いて幹事を代表して、森君から今後の会の運営について懇切な報告があり、焼津在住の片山君からは、来年の同期会には是非焼津でのアピールがあった。来年はわれわれ六〇期の卒業六〇周年の節目の年に当たる。是非みんな元気で再

会を果たしたいものだ。関東同窓会の会長を勤める上杉重吉君の音頭で乾杯、飲談に入った。

飲んで、食べて、久し振りの再会に話がはずむ。健康の話、孫の話から在校中の思い出の数々。戦争が次第に苛烈さを加える中、県立高女や不二高女学生と小鹿の発動機工場で共に働いた勤労動員の思い出が懐かしい。

宴たけなわとなる頃、元野球部の黒田君が持参した、母校野球部のユニフォームと帽子をかわるがわる着用して、記念の写真を撮るという楽しい一幕もあった。昨年に引続き、今年の夏も母校野球部の健闘を祈りたい。

会もそろそろ終わりに近づく頃、体調をくずして通院中と聞いて心配していた、同期の人気者、ガスこと杉本武君が元気な姿を見せ、今年も恒例となった杉本君指揮による「岳南健児」を声高らかに四番まで完唱することが出来た。

最後は黒田君が三・三・七拍子で締め、今年の同期会もめでたくお開きとなった。

六十一期同期会

61期 中野佳彦

六十一期は旧制静岡中学の時代である。

昭和十六年四月に入学し、二十年三月に卒業させられ在学期間は四年間しかない。

旧中時代は特別な者を除き五年制であるのに無理矢理途中で卒業させられてしまった。

開戦の年に入学、終戦の年に繰上げ卒業とは文字通りの戦中派、敗戦配が濃厚となるなかで一人でも多くの兵隊をとの策である。

お陰様で六十期と六十一期は同時に卒業となってしまった。

勤労動員や軍事訓練に明け暮れる毎日で、落着いて教室に座れることも出来なかった仲間達も、今は七十代半ばになってしまった、この期は毎年四月の第二土曜日に同期会を開催することになっている。

今年も落花激しいなか、関東同窓会からの参加者十三名（稲森慎二君 大石次男君

大村富士男君 君島敏男君 清水泗郎君 清水澄夫君 清水照彦君 相馬孝君 濱田茂明君 諸田寶君 八木貞二君 山崎和夫君 渡邊敏明君）を得て、総勢七十名にて静岡駅前のホテルアソシアで行われた。

年々急増する体調不良者をも含めた百六十七名えの案内に、これだけの出席率はイチローやヒデキ、カズオでも到底及ぶものではない。喜ばしい限りである。

福地益人常任幹事長の挨拶、会計担当者の山崎隆之君の報告のあと早速記念撮影に移る。

この時に来年の担当幹事の指名が行われるがこれは天の声、誰も反対も辞退も許されない。

遠来の相馬孝君の寸話「富士山の見える処に美人はいない」の浴説はまともにつて嘘の固り、との大否定説に一同大いに気をよくして、待ちかねた乾杯の発声を機に場内の熱気は一気に急上昇。

広い会場の中を爆声爆笑が渦を巻く。



お互いの近況や昨夏の甲子園、百二十五周年記念行事等の話はいつ果てるともなく続き、今夏の予想屋まで現れる始末。

折しも噂をすれば何とかやらで、偶然会場に顔を出された関東同窓会会長の上杉重吉氏（六十期）を強引に引き込んで一同歓喜の大歓迎。

先輩のオールド静岡やオールド呉服町の面白話にボルテージは更にアップ。

白頭薄髪牛歩の者どもにはおよそ似もつかぬ有り様である。

午後七時半、望月良君のリードで岳南健児を四番迄と、フリーフリー静岡フリーフリー静岡高で流石の二時間半にも幕が下りる。

それにしても一体どこからこんなエネルギーが湧き出て来るのだろうか。不思議でならない。

長い人生の中で、最も多情多感の時代を過ごした、長谷の四年間に得た遺伝子のせいだろうか。

二〇〇四、四。

富士山に登ろう

73期山梨 由記

昨年は九合目までは順調に登山出来ましたが長い梅雨の最中に日程を組んだため頂上付近の天気が不順で雨と風に見舞われ頂上目前で断念しました。今年は梅雨の明ける頃に致しましたので是非ご参加下さい。出発7月25日（日）新宿駅西口に集合10時30分。バスで五合目まで。九合目に宿泊。翌日山頂を目指す。

一泊二日。京王高速バス往復5200円宿泊代5000円食事代別。装備品携帯品等の詳細希望者には郵送、又はFAXにて送付します。

申込は6月20日（日）までに山梨由記まで、お願いします。Tel 047・478・6906

幸せな結婚を希望する方々に良きご縁談のご紹介を始めます。真心を込めて無料ご奉仕致します。関東同窓会の副会長 山梨 由記（73期）まで、ご連絡下さい。

秘密厳守致します。

Tel 047・478・6906

kingsmil@chaatt.ne.jp

木の心は、私の心

彫刻家 前島秀章氏(七四期)

個展で語る

小学校の頃から絵を描いたり木を彫ったりするのが好きだったですね。静高を卒業してから木を彫るためのその時間が欲しくて一般の会社勤めはしたくなく今で言うフリーターで多くの仕事をしましたね。静高の校門を出てすぐ左側に実家がありました。七人兄弟の長男でした。茶業を営む生家は赤貧の日々でした。時間やら気持ちでは三割は木彫りに費やしたいの思いでした。特に先生に師事した事は無く、独学ですね。自分の経験した数多くの苦労と言うものがあるから今それが生きて私の作品になっている。人の苦労、お金の苦労をして来たから、作品は悲しく、暗いものを作るのでは無く、明るいものを、にこやかなもの、ほのぼのとしたものを創りたいし他人にもみて貰いたい。失

恋した人とか商売で失敗した人とか、重い病気で苦しんでいる人に見て貰うと、



て貰いたい。失恋した人とか商売で失敗した人とか、重い病気で苦しんでいる人に見て貰うと、



立ち上がる元氣、もう一度頑張ってみようと言う力になれると言つて呉れるのです。

東名高速道路の裾野インターを出たすぐ近くに前島美術館があります。御殿場高原の広大な自然環境豊かな敷地に時之栖(ときのか)のすみかがあります。その中に私の美術館があります。静高卒の芸術家は私の同期生の版画家もいます。美術館を持つてゐるのは私だけです。版画は作家の手に版があつて何枚もすれば同じ物が出来るけど、木彫は今創つた一個しかないのです。

見る人が元氣な時は、木彫なんか必要ないのです。自信が無いとか落ち込んでゐる時は、木と言うのは、凄く包み込んで呉れる。木造住宅とか木の家具とかは温かみがあるのです。木は長い間、生きて来ましたが、神の力とか、土と光と水を宿つて来たからね。こ

の美術館には長野県から運んで来た樹齢八百年と言う大きな木で、祠(ほこら)があつて、木のトンネルですね。ここから入つて行く。その祠に木彫作品があると、居ると言うかその他にも樹齢三百年、五百年と言われる木が飾つてあつて妖精達が遊んでいるのです。知的な設備を設けたいと十三年前に構想があり三年掛けて私

の作品を集めて美術館にしたいとの申し出が来て実現したので。海外から一億円の絵を一枚だけ飾るよりも心温まる作品、地元作品、品、地元の作品とかの選考があつて私の作品なら百個飾れますからね。木は人の心に温かい。私の内面の心として、人を驚かしたり、びっくりさせたりと言ふのは得意ではないのです。優しく包み込む様な私の性格とがマッチした作品を創りたい。木彫は、仏教が根にありますね。キリスト教は油絵です。木彫は仏教と共にあ



るのですが、決して私の作品は仏像では無いのです。芸術は人間を幸せにするためにある、と僕はずっと信じています。芸術家は人を幸せにする職業だ、と僕はこの仕事を続けています。

ギスギスした時代だから、カサカサした時代だから、貴方の作品が必要なんだから、と皆さんがそう言つて呉れるけれど、ひそかに僕も、そう思つてゐる。

こつこつと鑿を打ち込みながら、僕は自分自身のいのちを刻んでいる。ぶつぶつと木に語りかけながら、結局僕は自身自身の心をみつめている。こうして生まれた作品の一つ二つが、たくさんの人々に感動ややすらぎを与えることができたなら、それが芸術。木彫という仕事の幸せを、あらためて強く深く感じている。

樹齢三百年以上を数える風倒木、その身には根を失つても生命力で満ちあふれている。前島秀章は、風倒木の中から一つひとつ生命を取り上げ、新しい息吹を与えていく。そして、それらが前島秀章の作品となる。生命のカタチは



さまざま。童子であつたり、動物であつたり、鬼や仏様だつたりする。豊かな表情は、どこかなつかしく、どこかやさしい。あとがき

前島は小生の一年後輩である。小生が三年の時、柔道部のキャプテンをし、彼が次のキャプテンを引き継ぎ、又小生が福山校長からの依頼で応援指導部を創設した時も前島は二期目の応援指導部の団長を勤めたのである。本当は裾野まで取材に行きたかつたのだが、池袋の西武百貨店の個展での取材となつた。前島美術館は御殿場市神山七一九番地 tel〇五五〇一八七五〇一六次の個展は、六月十日(木)から十三日(日)まで。高輪プリンスホテル貴賓館にて開催です。

取材 山梨 由記 73期

◆◆◆◆◆
平成十五年度 会費拠出者
◆◆◆◆◆

平成15年4月1日

16年3月31日

順不同、敬称略、寄付金を含む。

カッコ内の数字は拠出額、単
位千円但し、年会費三千円
拠出の方は、金額の記載は
無い。

48 近藤希賢(9)、原崎進一、青
木香、国水高典(6)

49 杉本久敬(6)、菅沼 榮(6)

50 田中誠

51 永井五一郎、原崎郁平(6)、
森 弘(6)、渡辺功(8)、林

盛次、伊藤漢吉、田中賢一

52 小川善次郎、綾部立一、
新美弘、大草和久

53 望月昂、志田寿一、木宮高
彦(6)、桜井昌也(5)、小野

一夫、橋本久仁寿、宗像醇

54 大畑忠夫、柴崎芳三、安藤
哲夫(8)

55 山下武男(6)、松井保治、小
沢忠樹、宗四朗、相川富士

雄、堀江重遠

56 清水逸郎(6)、奥野進、鈴木
源一、萩原達雄(4)、山口弘

村田大八郎、大庭妍也

57 原川久雄(6)、久保田誠三、

望月修(6)、坂田秀雄、岩井

平一郎、島根光明、大島隆

夫、影島利邦(6)、月見里

礼次郎

58 須山静夫(6)、奥野弘、伊
藤健三、島村悟、望月恵一

59 増田真一、大村和夫、伊藤
光雄、高橋裕、近藤陽三、

加納久夫、青木豊(5)、清水

汪、長谷川邦三、望月靖久、

田澤義彦(6)、菅原操、内田

武二、曲測景敏、川田昭、

小花敏郎、勝呂清、大塚恒、

小澤将男

60 鈴木光男、堤崇(6)、上杉重
吉(6)、大石隆一、谷龍治、

笠間達男、石関忠雄、井田

淳、逸見昭三、渡辺博、山

路敬三、小林金次、萩原莊

太郎、内藤敏夫、時田正康、

服部昌夫、原田龍二(6)、山

本雅之介、酒井美高、新聞

昌輝、益田清聞、山本正三、

井出裕雄、君島康弘、山崎

鏡次

61 大石次男、君島敏男、八木
貞二(6)、清水照彦(6)、西

田駿之介、清水澄夫(6)、山

崎和夫(6)、高山秀男(6)、

高村岳史(5)、竹迫友一、青

木邦彦(4)、徳永重遠(2)、

相馬孝、稲森慎一

62 伊藤守(2)、川手生己也

(5)、宇佐見道夫、三枝弘

之、横井一(6)、杉浦文雄、

吉川隆士

64 遠藤榮(5)、仲野寶(9)、
猿谷秀雄、山本和彦(6)、

塚本光彦、鈴木明郎、野沢

正憲(6)、松下一男、蛭川

博之、増田政雄、八木綱三、

佐野旭、佐藤弘幸、永田進

一、長谷川直和、岩本吉雄、

杉本哲、長嶋健、益頭尚文、

望月坦、竹内豊、柳田亮、

66 小林成敏、瀧尾章、安田正
弥、加藤昭(6)、増井和夫

(6)、藤原隆二、森山秀夫

(6)、菊田聰裕、大坪信之、

曾根錦吾(6)、内田幸雄、

馬越峻、浮田泰治、中島睦

生、安池智策、石川剣二、

三原載、普善一郎、大村敏

夫(6)、浜田裕志、大塚修

弘、馬淵逸明(6)、武藤勇、

川合勉、中村伸吾、小嶋清

司、村越立彦、河守輝雄

(9)、逸見昭三、藤原朝則、

山下裕一、飯塚二郎、田中

俊男、原野谷朋司

67 丸山英久、増田安国、朝倉

勇、松岡健(6)、手塚重明、

長倉孝三、加藤友行、大石

脩而、山岡進、小杉謙一(6)

岡村英二郎、小杉弘(6)、美

濃一朗、黒田秀行(6)、牧田

仁男、島居滋夫、遠藤一彦、

山川静夫、岩崎為明(2)、矢

部隆、杉田勝男、川上剛二、

児島英男、鈴木敏行

68 松下司郎、鈴木昭夫、高橋
俊見、岩瀬順郊(6)、河口

浩、塚本浩司、植田勇夫、

田中英夫(6)、雨宮明生、

星野敏郎(6)、杉山和子、

大石康博、秋山和也(6)、

望月芳朗、酒井定子、宇田

貞子、稲葉清、市原卓、吉

崎英輔(6)、栗田瑞夫(5)、

瀬口寿一郎、大川庄司、瀬

堂川徹(6)、鈴木俊彦、松

島玲子、林明宏

69 堀場千賀重、原久弥、望月

道生

70 佐々木政三、宮代省一(5)、
富田三樹、清水令一郎(6)、

中村龍二(6)、大草敏郎、

石山博(6)、松永茂(6)、関

哲男、片山智司、柳澤伯夫、

山田恒男、仁科正雄(5)、

久米旺生(1)、大場良臣、

清智(6)、鈴木明次(5)、久

沢正雄(6)、北村孝、市川

三史(2)、中島敏雄、大蝶

晴美

71 岩崎謙一郎、宮崎次朗、西
野章(6)、小池啓治(6)、松原

徳満、加藤祐史(9)、川上貫

三、佐藤利治、富野寿(6)、

実石欣哉、青木庄一郎、望

月祐言、酒井力、山田卓矢、

安藤龍男、池本徹、石川宏

友田勲、梅原孝允、浦田彰

栗田甲子男、後藤弘枝、前

田利彦

72 田中敬二、深田均、松島正
明、今泉烈(5)、松木茂夫、

丸山安彦、櫻井正之、山口

公子、夏目雅之

73 望月智(6)、永井敏夫、桑原

敏久、青木俊一郎(6)、清水

純、加藤甫(6)、飯塚迪子、

関悦男、松下勝朗、岡本修

鈴木聰男、塩津浩、彦坂忠

俊(8)、大木茂、後藤宏、後

藤孝子、浦野澄子、池ヶ谷

章、石川征四郎、石川久男、

石川八洲夫、石割浩司、大

石堯史、岡本修、加藤元彦、

小柳忠義、小山武夫、近藤

守、三枝通康、佐々木勝彦、

杉山正三、杉山親司、杉山

征司、杉山洋司、鈴木智彦、

中西英一、西沢秀雄、原崎

- 幹雄、前田修、牧野昭雄、松永烈、武藤至輝、望月公美、山口進、山中博司、山梨由記、山本昌秀、和田武郎、渡辺雅俊、遠山敦子、大村博
- 74 藤原經史(15)、角谷治子、山口雅子、井鍋正良、佐藤鐘司、佐藤薫郷、松下晴一、石川富規夫、塚本豊、田中佐知子、大嶽隆司(6)、花本栄二、田形嘉之(2)、野々田昶、渡部伊保子、中村牧子、佐藤捷造、西山肇
- 75 今田肇(6)、小栗悠嗣、小林銚一(6)、稲葉元夫(2)、川瀬光彦、大島崇志、佐藤修二、鈴木正孝
- 76 伊藤哲治、坂内三容、鈴木弘、富田駿介
- 77 柳川信子、加藤重信、仁科光司、三浦位通(6)、伊藤達雄、森正樹、岩崎敏宏、石山建一(6)、飯田善久、石間啓一、鈴木宏治、三浦昭彦(18)、大岩蓮、小長井奎幸、武田恒章、清水雅尚、後藤嘉代、野方重人、村松貴彦
- 78 小林俊、鎌田勇、石田久徳(6)、大野隆造(6)、山本勇夫(10)、河辺正宏、斎藤登記
- 男、五十嵐誠、細野茂、瀧浪武、奥山和子、田中奉、望月昭彦、宮地幸、白木桃子、飯田秀房、多田真行、友安昭、川崎敏弘、垣生尚敬、伊藤洋之、村松洋子、立石正之
- 79 安江經和(6)、山本勝、野崎喜吉、上田尚亮、稲葉啓二
- 80 小本哲朗(6)、吉野卓史、秋山幹男、福田辰之(2)、柴田裕、土田薫子、上出和子
- 81 本多英一(6)、浅原泉、鈴木昌男(6)、大沼信之、嶋田政子、高山貞和、白井勉、仲谷博明
- 82 大村多聞、秋山好(6)、金子恵子、鈴木きみ、田畑秀典(6)、八牧浩行、小倉正子、伊藤きく代、小長井主税
- 83 鈴木秀孝(6)、浅井隆善、大石高志、山本雅敏
- 84 山田孝夫(6)、戸塚康男、塩谷立(6)
- 85 牧野英敏、伊藤成師、池田幸司(6)
- 86 矢部徹(6)、近藤孝邦、加賀屋正之(10)
- 87 平石正史、塩川治郎(6)、高橋宏、安部敏陽(6)、石川嘉和(6)、押見滋、フルー文子、
- 薬科名雄、沢井良輔、遠藤久資、一木るみ子
- 88 田中育恵、勝亦重弘
- 89 新村暢宏、宮地啓路、鳥巢修、山崎真紀子、杉田達哉
- 90 荒井千明(6)、米澤宣行、小川修史、栗山伸一
- 91 奥津和宏、村松秀明、
- 92 山野直文
- 93 安藤暢彦、大羽章弘、小澤薫
- 94 石川純嗣、亀山晴信(6)、牧野英久、松野敦子(7)
- 95 菊入みゆき、鈴木久子、永江經宜
- 96 渡辺一博、岡部実、大代倫生、鈴木啓正、山田周一
- 97 窪田誠
- 99 野元知子、青木照幸
- 100 五十嵐寧、恒光隆法
- 101 大石智子、穴澤敦子
- 105 中谷英一
- 106 齋藤光晴
- 113 竹内明香(2)
- 川村良年、小野田寿子、片桐篤、三浦一郎、内田正広
- 合計四九九名の会費納入者で総額一、七二三、〇〇〇円でした。同窓会員の親睦と会の維持のために会費の納入を、お願い致します。

ひとりひとりの

ご協力を

○ 総会や同期会などの会合には億劫がらずに出席し、楽しい一時を持ちましょう。

○ 年会費の拠出者が年を追って減少し、さびしい事です。関東同窓会の運営も難しくなっています。

関東同窓会の円滑な運営のため平成十六年度会費(三千円)の納入を同封の振込用紙で、お願い致します。

なお振込用紙は会報の毎号に年会費の納入済み、未納に問わず同封しております事をご了承ください。

○ 宛先不明のため、会報返送が毎回多数有ります。住所変更の場合は、至急一報の程お願い致します。

★ 会報の広告募集 年2回(2万円)にご協力をお願い致します。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

★ 事務局へのご連絡は……
〒101-0045 千代田区神田鍛冶二七三
森下ビル六階 野方法律事務所内
野方重人(77期)

TEL 03・3251・2348

次回の五十八号の原稿を募集しています。

★ 同期会、紀行、随筆、短歌俳句など。海外勤務、在住の方のメールをお寄せ下さい。本文、横40字、44行、略歴2行で次のアドレス迄送信下さい。次回の締め切りは、11月15日です。

kingsm@chaat.ne.jp

編集後記

★ 関東同窓会の創立三十周年の記念すべき年となり、今までの役員幹事諸兄姉のご努力に感謝致します。これから先輩・同輩・後輩の方々の良き親睦の広場になるように努力を致します。是非、総会・懇親会にご参加を御願致します。

★ 今回から同期会補助制度が改良され面倒な事一切なしとなりました。81期以降の方は積極的に利用したいメリット大です。さて今年も暑い夏と共に総会の季節到来。更に記念すべき三十周年ですね。今年の幹事82期は例年にも増してバワフル、賑やかです。目下のところ毎月の役員会が楽しみ。

(T)

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

静岡市清水入船町11-1

TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)

京浜支店 東京都港区芝公園1-2-12

TEL 03 (3432) 7152

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054 (262) 1111 (代)

東 京 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F

TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤正憲 (64期)

東京都品川区南品川2-17-11

TEL 03 (5783) 3841

TEL 03 (5783) 3755

自動車・火災・傷害保険 大 高 保 険 事 務 所

代 表 清水雅尚 (77期)

東京都渋谷区東3-15-8

TEL 03 (3406) 9350

PHS 070 (5103) 8920

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〈事務所〉

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3

蔵下ビル6階

(TEL) 03 (3251) 2348

(FAX) 03 (3257) 0820

* 昼2時より夜11まで診療 *

タカラ歯科診療所

代 表 フラ シナ アキ オ 穂 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分

TEL 0120-376-480

FAX 03-3710-8847

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〈事務所〉

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17

TEL 03 (3396) 3858 FAX 03 (3396) 3848

E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……首都圏中心に60店舗

株式会社 アイセイ薬局

「医薬分業のパートナー」

代表取締役 岡村幸彦 (93期、応援指導部)

東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5

TEL 03 (5651) 7200

http://www.aisei.co.jp

ダイオキシン排出ゼロを目指す焼却炉 中小企業庁長官賞 受賞

政令の千分の一排出率達成 南極昭和基地2基設置

海外10カ国の特許取得済 13カ国の特許出願中

販売代理店 山梨株式会社

代表取締役 山梨由記 (73期)

〒274-0825 千葉県船橋市前原西7-5-8

TEL 047-478-6906 FAX 047-478-6907

限りある国土利用に 貢献する

株式会社 芝工設

専務執行役員

田畑秀典 (82期)

〒105-0013 東京都港区浜松町1-16-5 ゼビル

TEL 03-5777-2315

取扱い工法

テールアルメ工法

補強土壁工法

軽量盛土工法

地盤改良工法